

ゆ さわ い せきしゆつ ど ひん
湯ノ沢F遺跡出土品

- 1 種 別 有形文化財（考古資料）
- 2 名称及び員数 湯ノ沢F遺跡出土品 117点
（内訳）鉄製品69点、銅製品7点、石製品6点、漆皮製品2点
土器33点
- 3 所在地 秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ下23番地2 四ツ小屋遺物収蔵庫
- 4 所有者 秋田市
- 5 説明

湯ノ沢F遺跡は、秋田市御所野湯本に所在する。

昭和58年（1983）と昭和60年の発掘調査により平安時代の墓が40基見つかった。この墓には木棺の痕跡があるものも確認され、遺体は副葬品と共に棺に納めて土葬していたと考えられる。副葬された土器の形から、9世紀後半という限られた期間に造られた墓群であると推定される。

副葬品には土器の他に鉄製品、銅製品、石製品、漆皮製品があり、種類は豊富である。鉄製品には、鉄刀や鉄鍬などの武具、馬銜や轡などの馬具、鋤先や鎌などの農具、紡錘車などの生活用具がある。鉄刀の中には金銅製飾り金具がついた儀仗刀二振が含まれるほか、銅製や石製の帯飾り、延暦15年（796）初鑄で皇朝十二銭の一つである隆平永宝などがある。これらは律令制の中で下賜されたか交易によって入手したとみられ、被葬者と律令政府との関係を示すものである。

本出土品は、県内で出土した奈良、平安時代における副葬品の中では、その種類、数量ともに最も多く、儀仗刀や漆皮箱など希少な優品もある。また、秋田の古代史上重大な出来事である元慶の乱との関連も考えられ、貴重な資料である。

参考文献

秋田市教育委員会『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書一坂ノ上E遺跡・湯ノ沢A遺跡・湯ノ沢C遺跡・湯ノ沢E遺跡・湯ノ沢F遺跡・湯ノ沢H遺跡・野形遺跡一』昭和59年（1984）3月

秋田市教育委員会『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書一地蔵田B遺跡・台A遺跡・湯ノ沢I遺跡・湯ノ沢F遺跡一』昭和61年（1986）3月

秋田市『秋田市史 第七巻 古代史料編』平成13年（2001）3月



3号墓 副葬品出土状況



金銅装直刀（儀仗刀）



帯飾り（上：銅製 下：石製）